

令和5年度 第4回 日野市子ども・子育て支援会議
議事録

日 時 令和5年12月20日（水）午後6時30分～午後8時10分

場 所 日野市役所5階505会議室

出席者 委 員 久米委員 山田委員 池田委員 大村委員 高橋（則）委員
栗栖委員 藤浪委員 本村委員 飯島委員 福田委員 清水委員
田中委員 小田喜委員 村岡委員 大西委員 高橋（康）委員
山下委員 村田委員

事務局 波戸副市長 中田子ども部長 飯倉子育て課長 滝瀬子育て課長補
佐 佐々木子育て課副主幹 篠野子育て課係長 加藤子育て課主任
佐々木保育課長 佐藤保育課係長 熊澤子ども家庭支援センター長
萩原発達・教育支援課長 株式会社名豊糸魚川

欠席者 土屋委員 原嶋委員

傍聴者 なし

（開 会）

会 長

ただいまより、令和5年度第4回日野市子ども・子育て支援会議を開催します。まず、本日の委員会の出席状況、会議の傍聴希望の報告等を事務局からお願いします。

事務局

本日の出席状況ですが、土屋委員と原嶋委員から欠席の連絡をいただいています。現在出席されている方が18名、過半数を超えていることをご報告します。また、本日は傍聴の希望はございません。

会 長

過半数の出席を満たしていますので、本日の会議は成立となります。なお、本日も、波戸副市長にご参加いただいていますので、よろしくお願いします。本日は傍聴の希望はないということですので、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

では、次第1. 会長挨拶ということで、簡単にご挨拶させていただきます。今回は、11月の頭に日野市のこどもまつりがあり、それが終わっての最初の会議となります。私もこどもまつりに大学の学生と一緒に参加しましたが非常に盛会で、久しぶりに子どもたちの笑顔を見て、勇気と元気をもらったなという感じがします。それぞれのお立場で総括されているかと思うのですが、このようなおまつりがこれからどんどん続いていければよいなと思います。

今回の会議では、審議事項として前から懸案に上がっているニーズ調査についてがあります。事前に届いたものをご覧になられたかと思いますが、後ほど皆さんからご意見をいただいて、まとめられるような形にしていきたいと思っていますので、本日もよろしくお願いします。それでは、配布資料の説明等を事務局からお願いします。

事務局

まず確認事項ですが、本会議は日野市子ども・子育て支援会議条例施行規則により、本会議及び会議資料は原則公開となります。議事録についても後日、委員の皆様を確認をいただいた上で、日野市のホームページ上で公開となります。

本日の資料についてですが、まず事前に郵送したものが、「資料1. 子ども・子育て支援会議委員および市役所関係各課による意見一覧」、「資料2. ニーズ調査票(案)」です。資料2は調査対象区分ごとに作成のため、全部で8種類、区分ごとに枝番を振っています。また、本日配布の資料は2点、資料2-③小学生調査票、資料2-④中学生調査票のそれぞれ表紙となるものです。事務局からは以上です。

会 長

では次第2. 報告事項について、事務局から報告をお願いします。

事務局

報告事項 1. 令和6年度学童クラブ入所申請状況についてご報告します。令和5年10月10日から10月31日までの申請期間で、2,290名の申請がありました。令和5年度と比較して5名の増加で、ほぼ同数の申請数となりました。また、令和6年度から、電子申請という申し込みを開始し、申請数は413件で全体の約18%が電子での申請でした。申

請される保護者が市役所にお越しただかなくても24時間申請ができるようになり、今後も継続していきたいと思っています。申請については現在審査中で、入所通知の発送は、令和6年2月の上旬を予定しています。

事務局

報告事項2、令和6年度保育園の入所申込状況についてご報告します。現在1次の申込が締め切られており、申込件数は1,250件、昨年度の申込件数が1,189件ですので、61件増えた形となります。ただ、昨年度の数字はすでに取り下げが含まれた数字となっており、今年度の数字はまだ取り下げ等の件数が反映できていないということもありますので、最終的にはもう少し減る見込みと考えています。令和5年度より増えた状況については、年齢別で見ると0歳で29名、1歳で23名、2歳で11名が増加し、3歳で1名、4歳で8名減少、5歳は7名増加という状況となっています。

会長

ただいまの報告について質問やご意見がなければ、次第3. 審議事項に移ります。事務局から説明をお願いします。

事務局

次期計画策定に伴うニーズ調査についてご説明します。まず資料の1ですが、前回の会議やその後個別に委員の皆様からいただいたご意見とその対応について、また市の関係各課との調整や再検討した点についての一覧表です。こちらを参照しながら、資料2の各調査票案について、変更点等をご説明します。なお、調査票案については5年前の調査を参考に作っているのですが、事務局で再度見直しをした中で制度変更等により不要になった質問や回答の選択肢について文言等の整理や見直しをおこなった部分があります。数が多いため一覧表への記載は省略している部分もあることをご了承ください。何か前回と見比べて気になる事がありましたら、ご質問いただければと思います。

また、本日本配布しました、小学校5年生・中学校2年生用の調査票表紙の文章ですが、協力いただく子どもたちがこの調査はいったい何なのか分かった上で回答してもらうことが望ましいだろうと考え、どのようにすれば理解してもらえるかを念頭に、できる限り簡易な表現等を心掛け作成しました。本日本初見になり申し訳ないのですが、お気づきの点等がありましたらご意見をいただければと思います。

本日は委員の皆様にご審議いただき、ニーズ調査をどのような手順で進めていくか等スケジュール的なことについてはその後にご説明させていただければと

思います。では、ニーズ調査票案の変更点等について、支援事業者の株式会社名豊さんより、ご説明いただきます。

事務局

では資料の順番に説明をさせていただきたいと思います。まず資料2-①、未就学児童保護者調査票の2頁、問4と問5で、元々こちらの設問は母親に限定する設問という形でアンケートを問いていましたが、いろいろと事務局内で検討し、母親、父親を問わず、「ご自身の視点でお答えください」という形で、父親母親共に聞けるように修正をしています。次に12頁目、問32ですが、分岐して問28の幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用状況について聞いている設問になります。こちらで「利用していない」という方に主な理由を聞いていますが、「どこを利用すればいいかわからない」「どのように利用すればいいかわからない」という、明確に理由を答えることができない方、利用の仕方がわからない方、こういった回答の選択肢を追加しています。そして、13頁の問38ですが、こちらはあて名のお子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法を回答するものですが、元のアンケート設問では「ファミリー・サポート・センターを利用した」という選択肢がありました。ファミリー・サポート・センターは病気やケガで利用できないということで利用の定義づけからは外れていますので、回答の選択肢からは抜いています。続いて、17頁の問48ですが、下記の事業の中で知っているもの、認知度と、これまでの利用状況、今後の利用のニーズを聞く設問になっています。こちらについては、「ひとり親家庭のしおり」、「子ども食堂」、「無料塾」についても掲載してほしいという意見が関係各課から出ており、回答の選択肢に追加しています。

続いて資料2-②、小学校児童保護者調査票ですが、こちらについてはご意見等は特に出ていませんので、説明は省略させていただきます。

続いて資料2-③小学5年生調査票ですが、小学生に「どちらでもない」「どちらかといえど～」という文言は理解が難しいのではないかと、1から5段階で選ばせるとか、笑顔や涙のマークなどの工夫ができないかというご意見がありました。こちらはまずレイアウトについて1段階から4段階ということで、横に並べる形で表現をしています。マークについてですが、事務局内でも検討をしましたが、設問によっては、「そう思う」という回答がポジティブな意見として回答するものもあれば、少しネガティブな意見として回答するケースもあり、質問によってマークが逆転する可能性があります。そういったところから混乱を招く可能性がありますので、マークについては入れていません。段階についても5段階でというご意見もありましたが、こうしたアンケートで5段階というと「わからない」「どちらともいえない」だとかも考えられますが、基本的にはどちらかに振っていく形で段階を表記するという形で、1段階から4段階、そして横に並べるような形のレ

イアウトで回答いただく形で工夫をしています。続いて2頁、問6ですがこちらについては、【過ごしている場所】【過ごしたい場所】の回答選択肢にファミリー・サポート・センターがあります。これについて「ファミサポさんに保育されていたとしても、ファミリー・サポート・センターという認識はない、提供会員さんの家といった認識ではないか」というご意見をいただき、「ファミリー・サポート・センター（提供会員のひとの家）」という追記をしています。小学生5年生調査票案については以上になります。

続いて、資料2-④、中学生2年生調査票案です。こちらについては、5頁目、問20です。元の設問では問19で「日野市子ども条例」の認知度を聞いており、次の問20で「あなたは、安心して暮らしていると思いますか」、次の問21で「あなたは、『日野市子ども条例』に定められた『子どもの権利』を知っていますか」という順番でしたので、まず問19で「日野市子ども条例」の認知度、問20で「子どもの権利」を知っているか、そして問21で「あなたは、安心して暮らしていると思いますか」という順番に変更をいしました。

続いて資料2-⑤、高校生2年生相当調査票案です。こちらについては、問1「あなたの今の状況についてお答えください」、問2「回答した場所に通っている状況についてお答えください」という基本属性的にどのような状況になっているのかを問う設問を新たに追加しています。続いて9頁、問30で、子どもと関わった経験を聞く設問を子どもとの不適切な関係を疑われていると解釈する高校生がいるのではないかというご意見が出ました。元々の設問では「幼児とのふれあいについて、最近小さい子どもと接しましたか」、「子どもの印象はどうでしたか」という聞き方になっていましたので、幼児とのふれあい、や子どもとの接し方の現状を聞くという形ではなく、小さい子どもとの接し方で戸惑ったことはありますか、さらに、その戸惑ったことがない理由は何ですかという形に修正しました。実際に「兄弟や親せきなど身近なところに小さい子どもがいるから」だとか、「児童館などでいろんな年齢の子どもと関わることもあるから」だとか、「ボランティアや課外授業などで子どもと関わることもあるから」など、子どもたちとのふれあいの状況を理由として聞く形で不自然にならないよう修正をしています。

続いて資料2-⑥、若者への調査票案です。こちらについては8頁目ですが、「日野市子ども条例」「子どもの権利」、についての設問が抜けていましたので、追加しています。

続いて、資料2-⑦関連事業者・団体調査票案です。こちらについては、まず1頁目で、施設の種類、新制度への移行等々を聞いていた設問を、新制度の移行はすでに終わっているためあえて設問としては聞かないこととし、削除をしています。次に2頁目の問5「虐待の背景・原因・要因は何だと思えますか」という設問ですが、回答の選択肢として設けることで誤解を招く可能性があるものに対し、修正をしています。続いて3頁目、4頁目ですが、問8で「平日の保育サービスの定員・時間についてお答えください」という設問で、それぞれ基本定員の拡大について「拡大したい」「縮小したい」「現状維持でよい」という選択肢がありますが、元は基本定員の拡大について「考えたい」「考えていない」と

いう検討状況を聞く選択肢としていましたが、具体的に拡大意向があるのか、縮小なのか、という選択肢に修正しています。次に5頁目、問11で回答選択肢に若干追加をしています。具体的に言うと、「入所・利用定員を増やす場合、障害となる要素をお答えください」という設問に、選択肢1番の「職員の増員が追いつかない」に「職員の人材確保が難しい」を追記し、4番では少子化が進んでいるを「未就学児人口の減少が進んでいる」に修正し、9番では「保育の質が落ちることが懸念される」に「職員の保育の質の維持が難しい」を追記しています。そして、問12では今後実施を検討している事業の中に、選択肢14番「こども誰でも通園制度」を追加しています。

最後に資料2-⑧企業宛て調査票案ですが、1頁目の問4「今後、仕事と子育ての両立（ワークライフバランス）が可能な環境を整備・充実していく上で何が最も重要と考えますか」という設問がありますが、元の案ではその設問の前に「仕事と子育てを両立させる上で、障害となっていると感じることは何ですか」と障害の状況をまず聞く設問がありましたが、そちらを削除しています。

会長

今の説明について質問、あるいはご意見があればお願いします。

委員

未就学児保護者の調査票案ですが、全体的に読みやすくなったと思ったのですが、やはり未就学児の親としては時間がない、子育て中に時間がちょっとでも余ったら体を休めたいと思っている親も多いと思います。17頁の問48を例にしますが、この問48はすごく重要なことで「はい」「いいえ」でデータもきちんと取れるのはわかるのですが、「はい」「いいえ」に全部○をしていかななくてはいけないと思うと完答しづらいなと思います。「知っている」「利用したことがある」「利用したい」の3つでそれに対しての意思表示がほしいということなので、例えばチェックボックスを1個だけ用意してチェックさせれば、チェックがなければ「いいえ」という意思が伝わると思います。「いいえ」に○をしなればいけないと、1個手間が増えるなと思いました。

事務局

例えばこのAの「知っている」というところでチェックボックスが1つあれば、「知っている」に該当するから問題ないのではないかという、そういうことですかね。

委員

そうです。してなければ「いいえ」になると思います。

事務局

調査票としては問題ないかと思しますので、修正していく方向で事務局の方で検討させていただきたいと思えます。

すみません、先ほどの説明で漏れていた部分がありますので、ここで説明をさせてもらってもよろしいでしょうか。資料2-④中学2年生と2-⑤高校2年生相当の調査票案で、最後の自由記載欄で「国、東京都、日野市に対し、子育て支援策等に関するご意見やご要望、またお悩みのこと等がございましたら、簡素にご記入ください」という非常に仰々しい形での自由意見の聞き方になっていましたので、「これからの日野市、子ども若者の未来に関する意見などがありましたら、ご自由にご記入ください」という形に修正しています。以上です。

委員

1点だけ、見ていてクエスチョンだったのが、資料2-⑤高校2年生相当の調査票案です。全体的にとっても答えやすくなっていてよいなと思ったのですが、問1で2つ答えた場合、問2はどちらで答えようとなりそうだなと思いました。結構いるのが、学校は行けていないけれどもアルバイト・パートはしているというパターンで、どちらで答えようかなと悩みそうだなと思ったので何かあったらよいなと思えます。

事務局

おそらく、問1が「あてはまるものすべてに○」なものですから、問2が1対1で対応できなくて、どれについてどれを答えればよいのかが迷うということですね。すみません、事務局で整理をさせていただければと思えます。

会長

他に、いかがでしょうか。皆様から意見をいただいて修正をかけたものを説明いただいたところですが、本日の会議でほぼ確定しあとは事務局扱いになると、これが最後の皆様の質問や意見表明になるかと思えます。全体を眺めたところの意見、あるいは修正を含めて改めて見てみてどう思ったかというのがありましたら、この場で言っていただくとま

だ修正できると思います。細かいところでなくても全体を通してということでもよいので、今日は時間も十分ありますし、ぜひ全員の方からご意見をいただければと思います。

委員

未就学児の保護者のところで、意見させていただきます。最初1頁目の問1、問2のような、目を動かさなくても情報が手に入るような文字量だと、そこで情報が頭の中に入ってくるので回答時間がかかなり短縮できると思うのですが、問3のように文字が多くなってくると人間は目が動いて文字を追っていくと結構大変になってきます。そういうものを、言い方を短縮できるところは短縮するといちいち読まなくても頭に入ってくるので、「あてはまるものすべてに○」という優しい感じでやっていただいているのでパーっと○をつけていけるのかなと思いました。あとは、センシティブな話題というか、パートナーの意見が得られないとか意見が合わないとかいう選択肢を、この調査はどちらかが答えるという風に思っ作成しているのか、父母2人でやっていくという感じなのかわからないですが、母がこれをまずチェック入れて、その後に父がこれを見て「意見が合わないんだ」と思ったりしたら、その状況をどこで吐き出せばよいのかなと少し思いました。結構お互いがやれることをやっているはずだけれども合わないことはあると思うので、そこがかき回されてしまって、その救いがないなと思いました。なので、これを入れるのであれば、何か救いがほしいなと思いました。このデータをとることによってどのような幸せが待っているのかと思うと、あまり幸せが待っていないなと思いました。

文章が長くなりがちなものがもう少し短くなればよいなというのと、ちょっとしたことでも気になるような方も多いと思うので、皆さん真剣にやっていると思うので、そういう選択肢は必要なのでしょうか、ということです。

委員

修正をたくさんありがとうございました。かなり変わったなと思うのですが、2点だけお願いします。1点は、小学生や未就学児の保護者両方とも、父親がこの1年で何日休んだとか、母親が何日休んだという、日数を書く設問ですが、何日と数えているお母さんはいないのかなと思います。割合で、例えば母8割父2割とかだったらおそらく答えられると思うのですが、実際1年の中で何日という数字を出す必要があるとなると、結構これは空白が多いのかなと思いました。日数を数えると、早退で電話がかかってきて急に呼び出しとかインフルエンザだったら3日休んで旦那さんに1日だけ頼んでとか、その都度日々で生活している家族が多いと思うので、これを1年振り返るのは結構大変で「面倒くさい、もうやめよう」となる家族が多くなるのではないかと思います。もう少し曖昧でよ

いのだったら、何対何とかもう少し答えられるくらいの方が、実際のデータとしてはとれるのではないかなと思います。

もう1点は、高校生までは結婚とか子どものことについてこういう質問があるのは、結婚していく上ですごくよいかなと思ったのですが、その次の18歳以上40歳未満の若者の調査票で、結婚についての質問の後に子どもは何人持ちたいですかという質問に飛ぶのですが、この間に不妊治療をされている方は結構多いのではないかなと思います。私の周りでも結婚と同時に不妊治療を開始した方や2人目を考えて不妊治療をされている方がいます。治療中で生みたいけど生めないとか、高額医療なのであと1回だけやったら諦めなければいけないような状況の方がいるかと思うと、この質問はグサグサと刺さることを答えさせられるなと思ったので、質問の聞き方や答えの部分に配慮を入れてもらえると、もしかしたら答える実際の方たちとしては少しでも目が和らぐかなと思いました。

委員

たくさんの変更ありがとうございます。本当に読みやすくなり、柔らかい言い方にいろいろ変えていただきました。もし可能ならばですが、これだけの量で直すのは大変です。直す機会があったらでよいかと思うのですが、実は小学校低学年のひらがなの教科書は、文が読みづらいので文節で半角が入るのですよね。絵本とかは、授業がわからないからとか、友だちがいないから、という風に切って読むことで、子どもは読みやすくなります。調査票は字が詰まってしまうとちょっと読みづらいなという感じがありましたので、もし余裕があったらスペースを入れていただけると、教科書と同じように子どもも読みやすくなるのかなと感じています。

委員

現役ではないので子育てのことも過ぎたことなのですが、未就学児のところではとても細かくてよいのですけれど、ちょっと多いのかなという風に思います。高学年の方はよいかなと思うのですけれども、設問が多いかなと感じました。

委員

資料2-①未就学児保護者の調査票の間3とかの「あてはまるものものすべてに○」という項目が多いなということを感じました。自分がもし答えるとしたら、これを全部読むのかなと思うと、ちょっと疲れてしまうなと思いました。

資料2-⑦支援事業者・団体の調査票の3頁目の間8で、③が延長保育の拡大について「考えたい」「考えていない」、④が延長保育の時間の拡大について「拡大したい」「縮小

したい」「現状維持でよい」とあるのですが、同じような質問なので1つの質問にできないのかなと思いました。

委員

資料2-③の小学5年生調査票の問13の③で、「頑張ればいいことがある」というのは、「頑張れば良いことがある」ということなのか、ただ「頑張ればいい」ということなのか、どちらかなと思いました。

資料2-①の未就学児保護者調査票の問3「子育てに関して日常悩んでいることがある」で他の委員の方もおっしゃっていましたが、いろいろなことがいっぱい並んでいて、私も1対1で子育ての相談を受ける時に尋ねるのですが、子どもを育てていく中で日常悩んでいること、という聞き方をして、その中の分類として「子どものこと」「自分自身のこと」「家族のこと」「周囲のこと」というような聞き方をするので、少しそうやって分類をすると整理できるのかなと思いました。1番から24番までいろいろなことが並んでいるので、頭があっちこっちへ行くんですね。子どものことだったり、自分自身のことだったり、パートナーのことだったりするので、少し分類していただくと答えやすくてよいのかなと思いました。

委員

まず、単純なところで、資料2-⑤高校生2年生相当の調査票の10頁の問32で、質問文に「問29で」と書いてありますが「問31で」ではないかと思います。同じく、問33も、「問29で」と書いてありますがこちらも誤植かと思います。また、問30ですが先ほども説明がありましたが小さい子どもというのがどれくらいを対象として答えを聞きたいのか、高校生に小さい子どもと聞いてどのくらいの年代を想像するのかなと思いました。

前回の回答率からいくと、成人男女である資料2-⑥に対する回答率が400通出して100通回答で25.0%と一番低くて、ちょっと質問がネガティブな感じが多いので、ザッと見た時に答えたくないかなと思ってしまうような雰囲気が出ています。何が一番聞きたいかというところに重きを置いて答えられるところだけ答えるということでは求めるのか、この世代に対して何が一番聞きたいのかというところで省いてもよい質問があればそれだけ答えてくださいみたいな言い方ができるとよいのかなと思います。それが結果に反映されているようなところも、私も全部見ていないので何とも言えないのですが、このアンケートの結果をどこに反映するのにかによるとと思いますが、前回の計画策定の時の回答率の低さが一番低かったので、そこは気になりました。あわせていえば、商工会の回答率も100通出して33通回答で33%、設問もこの制度を知っていますかみたいなのがあ

って、あまり知らないと答えるのが恥ずかしいかなというところで、答えにくい状況が出るかなというところが危惧されました。

委員

今までもご意見が出ましたけれども、やはり保護者向けの調査票の回答が少し多いかなと感じます。ただ一方で、一時保存できる WEB のシステムで対応されていくということもありましたので、それはすごくよいと思います。おそらく、隙間時間にスマホでということが想定されると思うので、見やすい回答しやすいインターフェースというのが必要かなと思います。

委員

資料 2-③の鏡文の「小学校 5 年生のみなさんへ、日野市から調査ご協力のお願いです」の文章についてです。3 行目「子どもに関係するさまざまな事業を行っています」と書かれていますが、小学校 5 年生で事業というのはわかるのかなというのがちょっと謎だったので、ご意見いただければと思います。次に 6 行目「みなさんに教えてほしいと思います」とあって、ちょっと読むと「そこで、みなさんが毎日どんなふうに過ごしているのか、どんなことを考えているのか、楽しいと思うことはどんなことなのかを、みなさんに教えてほしいと思います。」というのがちょっと引っ掛かっています。みなさんというのが誰に対して言っているのか、誰からの問いかという日野市だと思うので、「わたしたちに教えてほしいと思います」とかいう表現の方がよいのかなと思って、ここが引っ掛かったもので、自分だけかもしれませんが、ご意見いただければと思います。

委員

資料 2-⑦関連事業者・団体の調査票で、幼稚園としてこの設問で引っ掛かると思うのが「保育サービス」というところで、幼稚園は保育園とは違い教育機関ですので、サービスと言われると幼稚園としてちょっと引っ掛かるかなと思いました。幼稚園は休日の保育サービスも行っていないですし、総じてサービスといえば預かり保育になるわけですが、あくまで幼稚園では選択を強いられるかなということもあるかなと思いました。また、問 8 で「問 10 で答えた見直し」というのがこれは「問 7」の誤植だと思います。あと、資料 2-①未就学児保護者の調査票で、やはり私も皆さんと同じ意見で、大変な子育ての時期にお母様もお父様もこのたくさん項目に○をつけるのは大変だなという風に思います。

委員

今日配布いただいた「小学校5年生のみなさんへ」と「中学2年生の皆さんへ」という調査票表紙で、小学校5年生はわかるのですが、中学2年生の皆さんへというところにふりがなが振ってあるのが疑問に思っ、調査票もふりがなが振られているのかなと思ったら中身にはふりがなが振られていないので、これは中学2年の方にもし見ていただけるのであれば、表紙はふりがなを無くすか、もしくは調査票の中も全部ふりがなを振るか、どちらかに統一していただいた方がよいのではないかなと思っました。

私は未就学児の保護者なのですが、未就学児保護者の調査票が、一番量が多いというのが見てわかりました。調査票の問5の2番で「上の子との育児の両立が難しい」とあつて、上の子限定で書いてあるのはなぜだろうと思っました。何人かお子さんがいる未就学児保護者の方が結構いらっしやると思っのですが、下の子だけあて名で来ると限定されているのでしたらわかるのですが、上の子の名前で来た場合に下の子との育児の両立が難しいなと思っている親はどこに○をしたらよいのかなと疑問に思っました。

委員

資料2-⑥若者調査票についてですが、問1で年齢を聞いた後に問2で職業を聞いていますが、問1で18歳から40歳と順番に並んでいるので、そのままの流れでいくと、問2の職業の方も学生とかパート・アルバイトから順番に並んでいた方が○を付けやすく、手が動かしやすいのではないかなと思っました。また問19で、これは問18で3～13を選んだ方に具体的な年齢を聞いていると思っのですが、これも問1の年齢と問18の出ていない期間を見比べればだいたいの年齢がわかるのではないかなと思っ、この問19をわざわざ具体的に聞く必要があるのかなと思っました。

委員

全体的に見やすくなつて、1つ1つの質問がすごく意味があるなという風には捉えています、やはり設問の量が多いという印象は拭えないところになります。基本的なところで子ども全員にいくものであつたかがわからないのですが、小学生児童保護者であて名のお子さんについてと聞いているのですが、もし全員にいくとしたら5人兄弟のところはこれが5枚来るのかとなると、5セット書くのは大変な量かなと思っました。資料2-②の小学校児童保護者調査票10頁、11頁で、問23は小学校低学年（1～3年生）、問24は小学校高学年（4～6年生）と、あて名のお子さんとどちらかを回答するようになるのかなと思っるので、どちらかを回答すればよいということをお子さんが1～3年生の場合は問23、4～6年生の場合は問24みたいに、もう少し見やすくわかるようにしてあげるとよいかなと思っました。

大したことではないのですが小学校5年生用の資料2-③で、4ページの間15では「親や先生などまわりの大人にもっと自分の意見を聞いてほしい」という設問があって、次の間16で「そう思うに○をつけた方にどんなことについて自分の意見を聞いてほしいか」とあります。家族のことは「家族との過ごし方」とかいろいろあるのですけれども、学校の先生に意見を言いたいとなったら、これは「学校でのこと」になるのかなと思いました。その他のところに書いてもらえればよいのでしょうかけれども、「学校でのこと」という回答の選択肢もあってもよいのではないかと思いました。

委員

先ほど小学校5年生の表紙にはルビが振ってあって、中学校の表紙にはルビが振ってあるが中身にはルビが振っていないというお話がありました。中学生でも識字障害を持っている子がいますので、これは中身にもルビを振っていただいた方がよろしいかと思います。高校生でもそういう子がいる可能性はあるので、中身にもルビがあった方が親切ではないかと思います。

先ほど小学生の調査票で「自分にはよいところがあると思う」「頑張ればいいことがある」というところがありました。両方とも、「良い」と漢字にして、ルビを振っておいた方が意味合いはよろしいのではないかなと思いました。例えば、友だちの友が漢字なのだけでも場所によっては全部ひらがなであったり、表記の問題だけですが、その辺をもう一度確認していただいて揃えていただいた方がよろしいかなと思いました。

委員

以前のバージョンの調査票を部内に展開しまして、何か気が付いたことがあればということ意見で意見を募ったのですが、特段の指摘はなかったということです。個人的には、再三ご意見が出ておりますが設問数が多いという未就学児の調査票については若干の懸念はあるのかなと思いますが、いろいろとされていけばよいのかなと思います。

委員

前回から比べると大分見やすくなって、わかりやすくなったかなという風に思います。やはりボリュームのところは若干気になるのかなと感じましたので、大きく言うとそういったところかと思います。

委員

「ともだち」という表記について全体を通してなのですけれども、小学校から高校までと、小学校の保護者の中に、「友人」、漢字で「友達」、友だけ漢字の「友だち」、全部ひらがなの「ともだち」と4種類出てきていました。これは何か使い分けをされているのか、意図が汲み取れなかったもので、そこはどうかのかなと思っておりました。未就学児童保護者調査票の中で、だいたい「お子さん」という表記をしていることが多いのですけれども、問10の中で「子ども」という表記になったりしているので、ここも何か使い分けをしているのかどうか。問5では「子ども」という表記で、問6だと1番が「お子さん」となっていたりするので、この辺はどうかのかなと思いました。

若者調査票で、選択肢の中で「きょうだい」という選択肢があるのですけれども、この年齢だったらひらがなで聞かなくてもよいのではないかと、特に意味がないのなら漢字にした方がよいのかなと思いました。

あと、これは私の知識不足かもしれないのですが、「放課後」という言葉について、私は放課後というと学校の授業が終わってから家に入るまでのことと認識しているのですが、その後の家に帰ってからのことの方が結構多いので、その辺の線引きを理解している人としていない人で変に感じる方もいるのかなと気になりました。

委員

一通りお答えいただきましたが、全体的なものとしては設問数が多いということです。ただ一方では、それによっていろいろと見えてくるもの、いろいろなことが構築できるのであればしていった方がよいと思うし、しかし設問が多くて回答が少なければ難しいというところもあります。何とかその辺を設問の数を減らす一方で、でも一方では働きかけて答えてもらうという活動をしていければよいのかなとは思いますが。

あとは、技術的なあるいは表記的なところで、センシティブな問題と委員がおっしゃったようなところです。調査票中には不登校やいじめが出てきますが、大学では学生が卒論を書く時や調査する時に倫理委員会というのを設けたりして、どういう風にトラウマを持っている人に質問するのかということを行います。調査票を作成するのはすごく大変だったと思うのですが、回答していった時にそれを見てフッと昔を思い出してしまうというのが非常にセンシティブな問題で、そういう言葉をなくすとか変えるとかその辺りを、大勢の人にあまり不快な思いをさせないような設問というのが問われてくるかなと思いました。他の言葉に変えようがない部分はあるかと思いますが、考えていただければ思っています。

資料2-①の未就学児保護者調査票の5頁の問15の選択肢12番に、「インターネット等（SNS等）」とあります。これが他にも満遍なくあるのですが、一応SNSがかなり知られている言葉で、その中にインターネットやインスタ等がみんな入ってくるのです

が、しかしインターネットで調べることが多いでしょうから、今これを出すなら、「インターネットを含めSNS等で」という風にした方がよいかと思います。SNSが全部網羅していることがありますので、そんな風に統一した方がよいのではないかと思います。あと選択肢9番が幼稚園教諭で8番が保育士ですが、これは保育所保育士という風にするのか、施設ということも考えれば施設保育士というような言い方も出てくるかと思います。両方含めてのことなのかなということでもこのままでもよいでしょうし、この辺をどういう風に考えるかというところがあるかと思います。10頁の間27で、6番が抜けていて5番7番となっていますので誤字と思われます。14頁の間42で、利用したことがある、なしに関わらず、とありますが、「関わらず」はこの字ではなくて手偏の方の「拘らず」だと思うので、ひらがなでよいのではと思います。そしてこれも選択肢4番が抜けています。19頁でこどもの権利についてとあって、このこどもの「こ」はひらがなの「こ」になっていて、問58の方は括弧付で「子どもの権利」と漢字になっていますので統一した方がよいかと思います。そしてこの設問の時に、他の設問ですと日野市の子どもの条例の話をしておいて知っていますかと聞いているのですけれども、これはストレートに子どもの権利を知っているかとなっていて、普通に子どもの権利を知っているかを問うのか、その日野市の条例に関わらせてそこを知っているのかどうかということを知るのであれば、増えてはしまいますが設問を付け加えて他のものと同じにするかということだと思います。問59の7番は、「必要な情報をする事」は、「知ること」と漢字にした方がよいかと思います。

資料2-②小学生児童の保護者調査票で、11頁の間24の選択肢6番の「その他（公民館、公園など）のところで、社会教育施設を含めて問うているのであればここに図書館を入れてもよいのかなと思って、そういう風にわかりやすいところを書いておく答えやすいかなと思います。14頁の間39ですが、先ほど話に出ましたが1番が親族（親、兄弟姉妹など）となっていてこれだとわかりますが、他だと漢字で「兄弟」と書いているかひらがなで「きょうだい」と書いているかで姉妹とは書いていないので、最近だとひらがなで「きょうだい」で兄弟と姉妹を表しているという形にしているのが多いので、統一して逆にひらがなできょうだいとするとよい場合もあるし、事務局で検討していただければと思います。

資料2-④中学生調査票についてですが、1頁の大きい見出しで「あなたの事について」と「事」が漢字になっていますが、問1は「あなたは、自分のことについて」と「こと」がひらがなになっていますので、ひらがなで統一していけばよいかと思います。

資料2-⑦関連事業者・団体調査票の1頁の間2の12番、「登園拒否、不登校などの問題」とあります。以前「登校拒否」という言い方があって、これは拒否をしているわけではなくて行きたくても行けない子どもたちということで、そこから名前が変わって「不登校」になったという経緯がありますので、登園拒否というのはポピュラーな言い方かというところ、そういう言い方をしているところもあるがもう少し違う言い方の方が、行きたいけ

れども行けないという自己理由もあるし、体はそっちを向いているけれども気持ちが、とかさまざな状態があるので、拒否という言葉を使うということは検討した方がよいかとは思いますが。

以上で委員全員にご意見をいただきましたが、事務局の方でこの場で答えておいた方がよいなというものがあれば、お答えいただければと思います。

事務局

たくさんのご指摘をありがとうございました。誤字脱字も含め、用語の統一や不適切なところなど、指摘をいただき大変助かりました。多くの目で見えていただくということは本当に大事だなと、大変感謝しております。

本配布した小学生、中学生へのお願い文について回答させていただきます。まず、小学生ですが、3行目の「子どもに関係するさまざまな事業を」の「事業」という言葉が小学生の腑に落ちるのかなというご意見でした。都が行った「とうきょう こども アンケート」を参考に見ると「取組」という言い方もあり、少し工夫をしたいと思います。また、「みなさんに教えてほしいと思います」の「みなさんに」というのは主語の受け止め方が違ったりすると、広くみなさんに教えてほしいという風にとられかねないなと聞いていて改めて思いましたので、ちょっと考えてみたいと思います。

中学生へのお願い文について、ふりがなが振ってあるけれども調査票の中身にも必要なのではないかというご意見もいただきました。実は調査票の中身にもふりがなを振ろうと思ったのですが、対応が間に合わなかったところです。これも都の調査を見ると中学生の調査には鏡文も含めふりがなを振ってなかったもので、振らなくてもよいのかなとも思いましたが、一方で例えば日本語が母語でないお子さんや、識字障害というお話もあり、ふりがながあることで理解の助けになるお子さんもいるのではないかと考え、まずお願い文にふりがなを振りました。そうするとやはり中身も必要ではと事務局で検討し、振ろうということにしたのですが今回の資料には間に合わなかった次第です。小学生、中学生については、全部ふりがなを振ったものを用意したいと思っています。

未就学児保護者の調査票の問3のような、設問数が多いところ、文字数も多く回答を読むだけでも大変なので文字数を減らせないかというご意見を多くいただきました。そこについては、小見出しとか分類をつけることによって見やすくなっていくこともあるのではないかというご意見もいただきましたので、できることを考えたいと思います。

また、パートナーの協力が少ない、意見が合わないなどといった表現が、保護者の両方の方が目にしながら回答する時にどうかというご意見もありました。この辺りもできることがあるか考えてみたいと思います。未就学児保護者のことが特に多いのは、聞かなくてはいけないことが最も多いところということで、どうしても削り切れないところや前回との比較で入れ込みたいところもあり、比較しながら工夫をしていきたいと思っています。

スマホで適宜中断しながらでも回答いただければということで、ここも工夫できればと思います。

いただいたご意見に全部は答えできないのですが、全般的に誤字脱字も含めもう一度点検して、可能な限りいただいたご意見は反映できればと思っています。対応しきれないところもあるかとは思いますが、いただいたご意見は非常に参考になりましたので、できる限り意図を汲んで直したいと思います。後は事務局預かりということで預けていただければと思います。

事務局

1点確認も含めてですが、資料2-①未就学児童保護者の調査票について設問数が多いというご意見です。こちらについては国の方で必須としている、いわゆるニーズ量を把握していくための設問ということで設定されている関係もありまして、なかなか設問を外すことができないということがあります。問3については選択肢も多いということはありませんが、こちらについても前回比較ということで同様の設問を準備しておくことで、この5年間の保護者の方のご意見を比較し5年間の変化を見ていく意味合いでも必要ではないかなと思います。先ほど事務局からも説明がありましたが、この分類等で検討していくということも前向きに検討させていただきたいと思います。13頁目の、病気やケガの際の対処方法で日数を聞く部分についても、何割という形で回答する方が回答しやすいのではというご意見もありましたが、こちらにもニーズ量を算定していく時に日数等について把握しておかないといけないというところもあり、先ほどの部分とあわせて、どこまで変更をかけることができるのか、事務局と検討させていただきたいと思います。

その他、回収率の問題でWEBというお話もありましたし、資料2-⑥の若者調査票についても5年前の調査結果ではかなり回答率も低いというご意見もありましたが、他の自治体でも今回実施する段階では紙調査と並行してWEB調査というような全国的な動きがあります。そういったところでは、この若者調査につきましては、WEBなどで回答いただくことによる回収率の高まりというところも期待できるころだと思いますので、WEB調査について見やすさという点に配慮したいと思います。3頁目の問12と問14、子どもを持ちたいと思う人数等について、不妊治療をされている方等への配慮についても検討していきたいと思います。5頁目の外出状況が現在の状態になった年齢を聞くという設問で、その前の設問でどれだけ現在の状況が続いているのかと聞くことによって、あえてここで年齢を聞く必要はないのではないかというご意見もありました。この若者調査についても削除することによって問題がないかどうかというところをしっかりと事務局と検証しながら、必要以上の設問ということでご負担をかけてしまわないよう、検討させていただきたいと思います。

委員

ありがとうございました。では今後のニーズ調査の進行について、説明をお願いします。

事務局

内容について丁寧に見ていただき、ありがとうございました。ニーズ調査票については後は事務局にお預けいただき、修正等を加えて確定させていただきたいと思います。

ではこの調査の流れについてご説明させていただきます。小学5年生・中学2年生については市内各小中学校にご協力いただき、学校を通じて子ども達に紙で回答していただくというようお願いをさせていただきます。新学期（3学期）の始まり後に速やかにご対応いただけるように、少しタイトではありますが年内には各校に調査票をお届けできればと思っています。この後すぐ修正をかけて、取り組みたいと思います。1月末に各校に調査票の回収にお伺いする予定です。その他、対象区分ごとに無作為抽出させていただいた方々や市内子育て事業者や支援団体、市内企業の皆様には、1月に郵便で調査票を送付させていただきます。回答方法については郵送での返信・WEBいずれかを選択いただけるような形でご協力を依頼します。こちらについても1月末を回答期限として、回答いただいたものを2月から3月にかけて調査結果を分析し、年度内にまとめて来年度の策定作業のための基礎資料を作成する予定です。

委員

今の説明について、何かご質問やご意見があればお願いいたします。

委員

WEBでアンケートを回答する時に、回答の進捗状況がバーでどのくらい残っているかがわかるような工夫をしてもらえると、あと少しで回答が終わるというようなこともわかるので、バー以外にもいろいろやり方はあると思うのですが、進捗状況がわかるようにしていただければ助かるなと思いました。

事務局

今のご意見ですが、WEBでの回答状況というものがわかるような表示ができるか工夫をしていきたいと思っています。

委員

今事務局の方から、特別支援を受けているお子さんのご家庭にもということがあったので、設問の中でエールや放課後等デイサービス、当該のサービスを使うという時間帯の設定がないようなので、あえて略しているのかはわからないのですけれども、そういう障がいをお持ちのお子さんやご家庭があるとすれば、選択肢に入れてもよいのではないかと思います。

事務局

ご意見についての追加説明です。未就学児や小学校の保護者の方でごきょうだいがいるご家庭で二重に調査の依頼がいきなり負担がかかってしまうことはないかという趣旨のご質問を先ほどいただいたかと思えます。こちらについては宛て名のお子様の保護者の方へという形で調査を行うわけですが、そのお子様を抽出する際に、既にそのご世帯の方を抽出している場合は同じ世帯にいる他のお子様は引っ張ってこないように世帯単位でデータ処理を行いますので、基本的にはそういった形で保護者の方に二重にご負担をかけるようなことはないよう処理をさせていただく予定です。

委員

それでは、次第4. その他ですが、事務局から何かありますでしょうか。

事務局

簡単にご報告させていただければと思いますが、第2回の支援会議の時に、「子ども食堂推進事業補助金」についてその時点での申請状況をご報告しましたが、現時点での申請状況等についてご報告させていただきます。

子ども食堂推進事業補助金は今年新たに創設をした補助金で、第1回の募集を広報ひの7月号で行い、追加で第2回募集を11月号に掲載しました。広報以外にも、市のホームページや子ども食堂連絡会等で周知を行ったところです。第1回募集では5団体から申請があり、合計114万2000円を11月上旬に交付済みです。第2回募集では現在3団体からの申請を受けており、審査内容を精査中です。市内の子ども食堂の状況ですが、市が活動を把握している団体が昨年12月の段階で4団体であったのに対し、今年12月の時点では10団体、さらに2団体が新たに年度内に活動開始を予定していると聞いています。全国的にもコロナが5類になったということも受け、子ども食堂が増加しているという報道等もあり、子ども食堂の活動を支援しているNPOの発表によると、全国の子ども食堂の数は昨年は7,000か所、今年は9,000か所を超えたということです。

委員

ありがとうございました。以上で本日の議題は終了します。今回このニーズ調査は5年に1度、子どもや保護者の声を聞くことができる非常に貴重な機会になります。今回この委員会でもいただいた声をいかに新しい計画に反映していくか、これからまた時間をかけて、委員の皆様と審議を深めていきたいと思っていますので引き続きよろしくをお願いします。最後に、次回の日程の確認を事務局からお願いします。

事務局

次回第5回会議は、2月15日の木曜日、午後6時30分より本日と同じ505会議室での開催を予定しています。詳細につきましては開催通知にて改めてご案内させていただきます。

委員

では以上をもちまして、本日の会議を終了します。お疲れ様でした。

(閉会)